

栃木県社会福祉士会会報



〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 発行 一般社団法人栃木県社会福祉士会
TEL 028-600-1725 発行責任者 松永千恵子
FAX 028-600-1730 編集責任者 福原 健治
ホームページアドレス <http://www.tochigi-csw.org/>

63号

発行日 令和7年1月20日

羅針盤



司法福祉委員会の活動について

司法福祉委員会 委員長 阿部 和史



羅針盤	1
トピック	2
会長の視点	3
今日の一冊	3
福祉士おもしろなタケリレー	4
ニューフェイス紹介	4
授産製品・店舗紹介	5
情報の広場	5
福祉士会通信	6~7
全国大会(島根県)紹介	8
フードバンクにご協力ください	8
栃木県社会福祉士会 メールマガジン登録のご案内	8
会報についてのご意見募集	8
編集後記	8

司法福祉委員会で委員長をさせていただいている阿部と申します。
よろしくお願いします。

司法と言うと少々お堅いイメージがあり、司法福祉と言うと、「何を
するんですか?」と質問をいただく事も多いです。主に我々は生まれ
つきの障がいや認知症の症状そしてそこに関わる周囲の環境によって
過ちを犯し、罪にとわれた方々の課題を抽出し、支援へと繋ぎ、穏や
かな日常生活を取り戻す手伝いをさせていただき、入口支援や出口支
援をおこなっています。また、もう一つの重要な考え方として、刑事
施設などの社会資源の適切な活用です。

程度にもよりますが、障がいの症状がある方や認知症を患った方が
入所した時、懲役等での更生を理解して生活していけるかと言うと、
そうでない場合も多くあります。そのような時は刑事施設に入所した
意味はなくなります。また、関わる刑事施設の職員も疲弊していつて
しまいます。このような社会資源の適切な活用と言う視点も重要だと
考えています。

さて、栃木県社会福祉士会には当初、司法福祉委員会がありません
でした。しかし数年前に宇都宮地方検察庁より、入口支援に協力
して欲しいとの声がかかり、まずは当初よりの既存の委員会で権利擁
護委員会にて入口支援でのアドバイザー派遣を受諾する事となりまし
た。その後、栃木県弁護士会より日本弁護士会から更生支援計画作成
等に助成金を出す事が決定した為、協約を結び、社会福祉士に協力
して欲しいとの依頼がありました。いよいよ、司法福祉の内容が多く
なってきた事を感じ、正式に司法福祉委員会を作る流れとなりました。
今後は、日本社会福祉士会でおこなっていたリーガルソーシャルワー
ク研修を令和7年度に栃木県で開催すべく、話を進めています。

司法福祉に興味がある方は、ぜひお声がけください。





「司法福祉委員会の実践報告」

栃木県内で活躍されている社会福祉士を紹介します。

「更生支援計画」の作成

司法福祉委員会 篠崎 文男



罪に問われた障害のある人への個別支援を行う取り組みの1つに更生支援計画というものがあります。障害のある人が刑事事件に至ってしまう背景には、障害福祉サービスを利用していない人もかなりの割合になります。このように、制度の「はざま」に置かれ、なんの手も差し伸べられなかった障害のある人たちが、最終的に刑事事件を起こす状態にまで追い込まれてしまう現状があります。そこで、福祉職などがその方と面会をして、その人らしく地域で暮らせるよう、どんな支援が必要かを考え、更生支援計画と呼ばれる支援計画を作成し、社会復帰後の支援体制を構築します。

この更生支援計画を作成するにあたり、私は何度か本人と面接をしなければなりません。私は警察署に行き勾留されている本人と面会を重ねることで、地域で

生活する案を一緒に立てることができました。その内容を書面にして法廷で内容の証言も行いました。このような活動をして、社会福祉士に求められていることは、司法分野でも多いのではないかと実感しました。



検察庁における「入口支援」実践報告

司法福祉委員会 星野 智枝



社会福祉アドバイザーとして私が面談を行った被疑者たちは、凶暴でも極悪人でもなく、普段から顔を合わせている人たちと何ら変わらない人であった。

面談を行った五〇さん(8050)は、「死体遺棄」の容疑であった。自分なりの介護と弔いを行ったが、損傷が進み泣いて交番に助けを求めた。罪名と人物像との間には、大きな齟齬があった。この事案は、声なき声を放置してしまった社会の責任であることを強く認識したケースであった。私は心の中で、ぎゅーっと抱きしめたい気持ちだった。

罪に問われてしまった人たちの中には、様々な生きづらさを抱えた高齢者や障害の疑われる人、生活困窮者なども多い。入口支援は、限られた時間の中で、個人や環境因子をアセスメントし、ストレングス視点で統合化した社会福祉の実践を展開していく。被疑者に

必要な制度や福祉的支援を提案し、矯正施設ではなく地域社会の中での自立、生き直しを促す。結果として再犯防止に寄与していく支援である。

被疑者たちが犯した権利侵害は許されるものではないが、その本人も差別や虐待、見て見ぬふりをされてきた被害者である。私たちの行う面談は小さな入口かもしれないが、幸せへの扉になることを願っている。



会長の視点

障害者相談支援専門員は犯罪から 障害のある人の人生を守っている

栃木県社会福祉士会 会長 松永 千恵子



皆さん、『獄窓記』（2003）という本をご存じだろうか。この本の著者山本譲司氏は、三十代の若さで衆議院議員に当選したが、秘書給与詐取事件で突然足元を掬われ、そして逮捕された。裁判ではまさかの実刑判決、栃木県黒羽刑務所に服役した。刑務所での彼の仕事は、障害を持った同囚たちの介助役だった。汚物まみれの凄惨な現場でひたすら働く獄中の日々の中、見えてきた刑務所の実情、福祉行政への課題。この本は、刑務所しか居場所が無い人たちの存在を世の中に知らしめた。当時、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園の研究課長をしていた私は、厚生労働省科学研究「罪を犯した障害者」に携わることになった。実はこの『獄窓記』やその後の『累犯障害者』の影響をうけて日本政府、法務省、厚生労働省が腰を上げ研究が始まったと言われている。研究では、刑務所の見学や検討会が

行われ、研究の結果、入口支援、出口支援の強化や刑務所への社会福祉士の配置、さらに県に1か所の地域生活支援センターが設置されるようになった。

あれから幾星月、栃木県社会福祉士会として法務局、地域生活支援センター、栃木県弁護士会、栃木県精神保健福祉士協会とともに困難事例や最近の課題について意見交換することになった。そして意見交換をするうちに気づいた点が一つある。障害者相談支援専門員の付いていない入所者の多いことだ。そこから、障害者相談支援専門員の存在が、犯罪の抑止力になっているのではないか、と考えた。障害者相談支援専門員に相談できることが、犯罪から障害のある人の人生を守っているであろう。障害者相談支援専門員（社会福祉士）の力は、制度設計の段階の想定以上に大きい。

* 山本譲二、『獄窓記』、ポプラ社、2003.

今日の一冊

「二十歳の原点」

高野 悦子

著 者 高野 悦子
書 名 二十歳の原点
出版年 昭和46年 5月10日（単行）
昭和54年 5月25日（文庫）
出版社 株式会社新潮社

旧西那須野町で生まれ宇都宮女子高校から立命館大学史学科に進んだ高野悦子さんが、二十歳になった昭和44年（1969年）1月2日から鉄道自殺で命を絶った同年6月24日の直前まで書いていた日記が、『二十歳の原点』です。

全共闘による学生運動まっただ中の立命館大学にいた高野さんは否応なく運動に巻き込まれます。その中で、公務員で地元の有力者である父（後の西那須野町長）を中心とする温かい家族の元に育った自分と、京都のアパートで親から仕送りをもらい権力側と闘おうとしてもなじめない自分と、矛盾や不条理を抱え悩みながらもまっすぐに向き合い続けた思索を日記に綴っています。時折記されるアルバイト先や友人のことなど日常の一コマや、日記に名前をつけ語りかける様子には、高野さんの素朴で愛らしい人柄も垣間見えます。

高野さんは、人間の存在価値は完全ではなく不完全さを克服しようとするところにあり、そこに生命の発露があると書いています。

社会福祉士として自己欺瞞を感じた時、高野さんの“ゆらぎ”と“ぬくもり”に救われたことが何度もありました。

『二十歳の原点』の最も有名な一文は「独りであること、未熟であること、これが私の二十歳の原点である。」です。

他者の人生に関わる社会福祉士にとっても原点になる言葉、原点になる一冊だと思います。

高田 美保



福祉士 おもいのたけリレー

県内で活躍する社会福祉士が、実践への「おもいのたけ」を語っていくコーナーです。このコーナーは、リレー方式で次の社会福祉士につないで掲載していきます。

掲載内容：①氏名(ふりがな) ②所属 ③趣味 ④実践へのおもいのたけ ⑤次にバトンをつなぎたい方

- ①福地 竜也 (ふくち たつや)
- ②合同会社 OWL.Tochigi 佐野支店 (令和6年4月オープン致しました！)
- ③筋トレ、芝生の手入れ
- ④令和6年4月より OWL 社会福祉

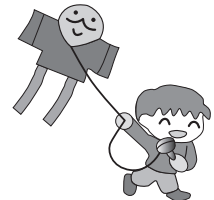


士事務所、居宅介護支援事業所に勤務しています。社会福祉士の資格は令和5年に取得したばかりですが、弊社の代表である松本副会長のご教授を賜り、日々研鑽に励んでおります。

現在は主に居宅介護支援事業所のケアマネジャーと事務委任の仕事を行っております。社会福祉士事務所を併設していることもあり、ケアマネジャーの仕事も複合的な問題を抱えている方を担当することが多くなっております。ケアマネジャーだけでは支援

を行うことが難しいこともありますが、他分野の社会福祉士や医療職、行政、民間の方など、様々な方と連携させて頂く機会に恵まれ、複合的な問題を抱える方に対して支援を行うことができました。社会福祉士は多職種で協力することにより真価を発揮できる職業だと思っております。このつながりを大切にして、地域共生社会に貢献できる社会福祉士になれるように励んでいきます。

- ⑤佐野市地域包括支援センター佐野市医師会の篠木史恵さん



若手のエネルギー溢れる新社会福祉士をご紹介します。

ニューフェイス紹介

- ①氏名(ふりがな) ②所属(事業所名、職種)
- ③マイブーム(趣味、特技、こだわり等)
- ④社会福祉士になったきっかけと抱負

- ①野呂瀬 優花 (のろせ ゆか)
- ②自治医科大学附属病院 患者サポートセンター 医療福祉相談室 医療ソーシャルワーカー
- ③趣味は旅行をすることです。観光



地を巡るだけでなく、ホテルでのんびりする時間や、図書館巡りを行いゆっくりと過ごす時間も好きです。また、テニスやカラオケも好きなため、体を動かしたり歌ったりしてリフレッシュしています。

- ④私が社会福祉士という職種を知ったのは高校3年生の頃です。どのような職業なのか興味を抱いて調べていくうちに憧れを抱き、社会福祉士の資格取得が目指せる大学へ入学しました。そして、大学の講義や実習を通して、医療の現場で生活の視点に着目しながら多職種と連携して関わる医療ソーシャルワーカーの重要性を実感し、志すようになりました。現在は急性期病院の医療ソーシャルワーカーとして、患者とそのご家族の方々と信頼関係を構築する

ことができるよう心掛けながら転院調整や相談業務に取り組んでいます。入職して半年以上が経過し、「ソーシャルワーカーさんがいて良かった。ありがとう。」と言っていただけの機会もあり、やりがいを感じています。しかし、まだまだ知識不足なことも多いため、今後も自己研鑽に努め、多様化する制度の中で、患者とそのご家族が必要とする支援を共に考え、分かりやすく伝えることができるような医療ソーシャルワーカーを目指したいと思います。そして、一人ひとりの思いを傾聴し、個別化して必要な支援を考えられるよう、経験を積み重ねていきたいと思っています。



授産製品・店舗紹介

このコーナーでは、障害のある方々が作る授産製品や販売する店舗をご紹介します。

株式会社 野のファーム

野のファーム佐野

(就労継続支援 A 型、B 型 多機能事業所)

住 所：佐野市小見町861-2

電 話：0283-62-3880 FAX：0283-55-5745

Web：www.vegimo.jp/nonofarm

親会社は株式会社ベジモで、本社は長野県佐久市にあり、出荷拠点としてベジモ長野、ベジモ栃木、ベジモ愛知、ベジモ京都、ベジモ広島があり、野のファーム佐野はベジモ栃木に位置づいている。



ベジモは「ベジタブルもっと」の略語で、農薬や化学肥料を一切使用せず自然環境や生物に配慮した野菜作りを行っている。12月に収穫される野菜は、白菜、生姜、にんにく、チンゲン菜、

シャクシ菜、カボチャ等多種多様。販路は、通販と佐野市内の有機栽培ショップや近所のコンビニでの店頭販売。通販は、東京から北海道までの地区を担当していて、毎日本社から宅配先の一覧が送られ、希望する野菜や個数を確認して事業所から直送する。また、株式会社ベジモの取り組みとして、有機農業スクール等を開講し、農業に関心ある方向けに、自然栽培の基本から土壌、栄養、病虫害、種子、農業経営まで「健康で美味しい野菜づくり」を学べる機会も提供している。

利用者の方は、細分化（収穫、草取り、洗浄、梱包、発注管理等）された作業に得手不得手を考慮して従事している。今年の猛暑は、体調に留意し、こまめに休憩や水分補給をしてやり過ごしたとのこと。作業をしながらの何気ない会話が心を和ませる。野菜達と同化してゆったりと流れる時の中で作業をしている姿を見てみると、なんだか頼もしくもあり、ほんわかした気持ちになった。(C)



情報の広場

第13回日本プライマリ・ケア連合学会

関東甲信越ブロック地方会へ参加して

2024年12月1日（日）、ライトキューブ宇都宮で開催された同学会へ参加してきました。今大会は栃木医療センターの矢吹拓先生を大会長、村井クリニックの村井邦彦先生を実行委員長として『仲間と創るジャムセッション～VUCA時代のプライマリ・ケアを考える～』を大会テーマに掲げて開催されました。全国各地から医師をはじめ、看護師やPT・OTなどのリハビリ職、臨床心理士や公認心理師、そして社会福祉士等が一堂に会して『プライマリ・ケア』についてジャムセッションを繰り広げました。『プライマリ・ケア』、この定義は『クライアントの抱える問題の大部分に対処でき、かつパートナーシップを築き、家族及び地域という枠組みの中で責任を持って提供されるヘルスケアサービス』と説明されています。意味を理解すると我々も持ち合わせていないといけな概念ですね。さらにVUCAとは『V』Volatility（変動性）、『U』Uncertainty（不確実性）、『C』Complexity（複雑性）、『A』

Ambiguity（曖昧性）の頭文字です。物事の不確実性が高く、将来の予測が困難な状況な現代社会において、我々社会福祉士も多職種と協働してプライマリ・ケアを意識したソーシャルワークを展開することが使命であると改めて知らされた学会となりました。

松本 裕行



栃木県社会福祉士会のブロック会・委員会・PT(プロジェクトチーム)の活動を紹介する掲示板です。

福祉士会通信

社会福祉士の皆さま、日頃の実践の質を高めるため、福祉士同士の輪をつくるため、是非会活動に参加しましょう。福祉士以外の方におかれましては、ブロック会等で研修会等を企画しております。是非ご参加ください。
お問い合わせは、栃木県社会福祉士会までお願いします。

総務企画委員会(松本裕行) 権利擁護委員会(濱崎香織) 生涯研修センター(金岩周平) 社会福祉評価委員会(鈴木康之)
権利擁護センター・ばあとなあとちぎ(小口みほ子) 広報委員会(福原健治) 災害福祉委員会(吉澤洋介)
県北ブロック(福原健治) 独立型社会福祉士委員会(松本佑司) スクールソーシャルワーク委員会(船山克美)
司法福祉委員会(阿部和史) 児童福祉プロジェクトチーム(片桐洋史)

総務企画委員会

松本 裕行

全国大会が終わって束の間、次年度は当会が発足して30周年記念の年です。当会ではこの区切りの年に30周年記念事業を開催する運びとなりました。つきましては会員の皆様の中から実行委員を募集したいと思います。詳細は今後、ホームページに掲載する予定です。奮ってご応募ください！お待ちしております(‘◇’)ゞ

権利擁護委員会

濱崎 香織

当委員会は以下の3つの部会で各活動を行っています。

- ①研修部会：虐待対応に関わる方向けに、高齢者虐待対応初級・フォローアップ研修や高齢者権利擁護推進研修、栃木県障害者虐待防止・権利擁護研修を実施しています。
- ②交流部会：県弁護士会と合同で、事例等を用いた勉強会を実施しています。
- ③虐待対応センター：実際の虐待対応現場における課題解決のために虐待対応専門職チーム派遣と専門職等に向けた虐待対応研修講師派遣を実施しています。派遣後には振り返りの勉強会を実施し、会員相互の情報・知識の共有を行っています。
委員会への参加やお問い合わせは、事務局までご連絡いただくか、Google フォームよりお問い合わせください。



生涯研修センター

金岩 周平

- ・基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは現在e-ラーニングと集合方式で研修を行っております。基礎研修を修了された会員が研修委員会に所属して、運営スタッフとして担っていただけると幸いです。
- ・実習指導者養成研修を11月23日はオンライン、24日は集合研修で行いました。29名参加されました。
- ・任意研修を12月22日に済生会宇都宮病院の荻津守氏、稲見一美氏を講師に迎え「女性の貧困とソーシャルアクション」のテーマで行いました。
- ・調査研究委員会では、精神保健福祉士協会と合同で「栃木県における地域共生社会の現状と課題」というテーマで調査研究活動を行っています。今年度内

に研究全体の成果を報告書にまとめ、会員に配布予定です。

社会福祉評価委員会

鈴木 康之

当委員会は、第三者評価と外部評価の活動を行っています。

第三者評価は、福祉サービス事業所が提供するサービスについて評価を行う事業です。対象事業所は、栃木県内の保育所や障がい者施設、高齢者施設など、幅広い事業所が対象となっています。外部評価は、認知症対応型グループホームを行う事業所に対して評価する事業です。どちらの評価活動も事業所の欠点を指摘するものではなく、事業所の取り組みや工夫している点などを評価するものです。

今年度は多くの評価受審を頂き、活動を進めることができております。今後も評価委員会の幅広い活動や運営を行っていききたいと思います。

権利擁護センター・ばあとなあとちぎ 小口 みほ子

ばあとなあとちぎは、12名の運営委員を中心に(1)報告書部会、(2)フォローアップ部会、(3)コーディネート部会、(4)養成研修部会と4つの部会活動をしています。(1)報告書部会は、8月と2月の定期報告書のチェックを行い、昨年度から報告書提出のIT化に対応しています。(2)フォローアップ部会は、県北・県央・県南と地区別に年2回ずつ計6回研修会を開催し、会員の為のスキルアップを図っています。研修は名簿登録更新要件となっています。(3)コーディネート部会は、裁判所からの成年後見人等の推薦依頼に対して、会員より候補者を推薦し、受任者には支援体制を構築しています。(4)養成研修部会は、成年後見人材育成研修と名簿登録研修を行います。

広報委員会

福原 健治

広報委員会では、ホームページや会報などを通じて、栃木県社会福祉士会の活動内容報告や研修会・求人などの情報提供をさせていただいております。

今回は、新型コロナウイルスもある程度落ち着いてきて、イベントや研修会も活発に行われるようになりましたの

で、司法福祉委員会の実践活動報告や研修会への参加報告、授産製品・店舗紹介など、活動的な内容を掲載させていただきました。

ところで、広報委員会は、メンバーを募集しております。活動は、主に会報作成についてオンライン等で集まり話し合いをしますが、メンバー同士の交流や情報交換も出来ますので、ご興味のある方は、事務局まで声をかけてください。

災害福祉委員会 吉澤 洋介

当委員会の今年度の中間報告は次の通りです。

- ① 7月23日 第1回委員会(リモート会議／6名参加)
副委員長の選任、今年度事業の進め方、情報提供等
- ② 9月24日 栃木県災害福祉広域支援協議会(栃木県庁／吉澤出席)
能登半島地震に伴うDWAT活動状況、本県の支援体制の課題について

今後の予定

2月 委員会研修「能登半島地震でのDWAT活動の報告」

「栃木県社会福祉士会大規模災害時対応ガイドライン」(2021年8月策定)のわかりやすいような見直し。

一般社団法人としてのBCPを見すえて考えてまいります。

興味関心のある会員の皆様、委員会への参加をご希望の方は事務局までご連絡お待ちしております。

県北ブロック 福原 健治

コロナ禍以降、しばらく活動を休止しておりましたが、今年こそは県北ブロックの活動を再開したいと考えております。

まずは、合格者を祝う会を企画したいと思っておりますので、ぜひご参加ください。

独立型社会福祉士委員会 松本 佑司

当委員会では10月30日に東京都社会福祉士会からのお誘いもあり公益社団法人東京都社会福祉士会主催【第1回ホームソーシャルワーク実践者養成研修】に当会の委員も参加させていただきました。

独立型社会福祉士の特徴や課題を独立・開業委員長渡辺和弘氏より、ホームソーシャルワーク実践のポイント・身元保証契約時の留意点など実例を交えて弁護士の八杖友一氏より講義もあり実践に生かせる学びとなりました。

また、来年度は県内・外の先進的な取り組みをしている団体への視察研修も予定しています。

独立しても、いなくても委員会加入や話題提供会に

参加が可能です。社会福祉士として少しでも関心がありましたら、ご連絡ください。

スクールソーシャルワーク委員会 船山 克美

SSW委員会では、毎月第2火曜日に定例委員会をZoomで開催しています。今年度は、3月中旬に研修会を企画中です。経験者向けのフォローアップ研修も兼ねていますので、ご興味のある方会報等をチェックしてみてください。また、昨年度も実施いたしましたオンラインでの茶話会を9月に実施しました。日頃現場で活躍なさっているSSWや他種職の方々からの活発な意見交換を行いました。委員会活動や茶話会に参加してみたいとお考えの方がいらっしゃいましたら、遠慮なくお申し出ください。また、研修の参加もお待ちしております。

司法福祉委員会 阿部 和史

検察への入り口支援のアドバイザー派遣や弁護士の依頼を受けて起訴され罪に問われた障がい者や高齢者の方への更生支援計画作成等を行っています。また、精神保健福祉会や弁護士会との合同でのとちぎ司法福祉連絡協議会を組織し、現在内部の組織作りを行っています。司法福祉に関わる業務を他の職能団体と連携し行っていく事でより効率の良い支援が可能になると考えています。また、令和7年度には、日本社会福祉士会が行ってきた、リーガルソーシャルワーク研修を司法福祉連絡協議会を中心に担い、栃木県で実施していく予定です。興味がある方はぜひお声がけください。

児童福祉プロジェクトチーム 片桐 洋史

スクールソーシャルワークやトラウマケアのスクールカウンセリング。不登校児や障がい児、ヤングケアラーや未成年後見、児童養護施設の地域ソーシャルワークなど、毎回、様々な分野から、メンバーのレクチャーやイベント、お知らせを共有しています。

行政、教育、障がい、保健、司法、福祉など、広範囲な領域で活躍する社会福祉士ですが、個性あって力のある人たちだからこそ横のつながりがほしいですね。普段関わることは希(まれ)でも、話してみるとやっていることは一緒だったみたいな交流の場が、このプロジェクトチームです。2ヶ月ごとの集まりは濃いですよ。次回は女子刑務所「塙の中の困った人たち」聞き応え満載です。



第33回 日本社会福祉士会全国大会 社会福祉士学会 島根大会

大会テーマ:いのち・権利・暮らしをまもり、
支えるソーシャルワーク
～人と地域をつなぐ縁結び社会へ～

※詳しくは島根県社会福祉士会HPをご覧ください

日時: **2025年 7/5(土)6(日)**
(令和7年)

会場: **くにびきメッセ**

〒690-0826 島根県松江市学園南1-2-1

主催: 公益社団法人 日本社会福祉士会
一般社団法人 島根県社会福祉士会

ぜひご参加ください!!

フードバンクにご協力ください

新型コロナや物価高騰の影響で、生活に困りフードバンクを利用せざるを得ない方が増えております。

栃木県社会福祉士会では、「フードドライブ」として、家庭などで食べきれないで余っている食品を持ち寄り、施設、フードバンクにお届けする「きずなBOX」を、とちぎ福祉プラザ3階の共同事務所に設置しておりますので、研修会や会議で福祉プラザにお越しの際

には、一品でも結構ですので、ぜひお持ちください。

お預かりした食品は、NPO 法人フードバンクうつのみやにお届けさせていただきます。

なお、お持ちいただきたい食品例(お米、レトルト食品、缶詰、乾物、お菓子など)、NGとなる食品例(野菜、水)となりますので、ご協力ください。

<栃木県社会福祉士会メールマガジン登録のご案内>

広報委員会ではメルマガ【栃木県社会福祉士会「情報交流の場」】で、研修会の案内や職員募集、国や県内等の新しい情報等を配信しております。

ご希望の方は下記アドレスからご登録してください。

なお、申し訳ございませんが、「docomo.ne.jp」「ezweb.ne.jp」「t.vodafone.ne.jp」等のドメインご使用のメールアドレスには配信が出来ない方もいらっしゃるので、出来ればそれ以外のアドレスでの登録をお願いいたします。

info@tochigi-csw.sakura.ne.jp

・件名に『メルマガ登録希望』というタイトルをつけて、本文に「氏名」、「会員番号」、「受信用のメールアドレス」を、メールにて送信してください。

【会報についてのご意見や投稿を募集しております!】

取り上げて欲しい内容や会報の感想、また掲載して欲しい投稿をお寄せください。

ご意見や投稿には、件名を「会報の意見」として、事務局メールアドレスにお送りください。

Mail: info@tochigi-csw.sakura.ne.jp

皆様の貴重なご意見を、会報作りの参考にさせていただきます。

編集後記

昨年の夏は暑かったですね。気温もそうですが長引く夏にも悩まされました。冬になって寒さが身に堪えますが、暖冬だったらそれはそれで心配なわけで、暖房費もバカにならないご時世ですが寒い冬を乗り越えて四季をちゃんと感じたい今日この頃です。
(坂本)

広告

一般社団法人

わんだふる・ライマ

居宅介護支援事業所
社会福祉士事務所
居住支援法人
空き家管理



代表理事
社会福祉士 岸友和

本部事務所 〒329-2742 栃木県那須塩原市東赤田 321-1221
tel: 0287-46-6176 (代)

黒磯事務所 〒325-0026 栃木県那須塩原市上厚崎 389-16
tel: 0287-73-5051



※広告掲載について、ご希望・お問い合わせの方は、事務局までご連絡ください。